平成２５年度
研究主題構想図

学校教育目標
- 自分がすき
- 友だちがすき
- 町がすきな宗小の子

算数科の目標
- 算数的活動を通して、数量や図形について基礎的・基本的な知識および技能を身につける。
- 日常の事象について見通しをもち、筋道立てて考え、表現する能力を育てる。
- 算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

目指す児童像

心ゆたかな子	● よく考える子 ● 思いやりのある子 ● たくましい子 ● 世界に目を開く子

児童の実態
- 計算はできるものの、根拠を伴った理解が不足。
- 量感や答えの見当など、数・量へのイメージの不足。
- 論理的な思考や表現への苦手意識。

研究主題

主体的に表現し、考えを深める児童の育成
―算数科における思考力、表現力、判断力の育成を目指して－

「主体的に表現する」とは
① 獲得した知識や技能を活用して、考えを表すこと。
② 思考や表現を根拠と結び付けて、伝えること。

「考えを深めること」とは
③ 学び合いの中で、焦点化された課題について数学的な表現を使い、検討・考察をすること。

算数科における目指す児童像

低学年	中学年	高学年
・具体物などを用いた活動を通して問題解決をし、計算のしかたを考えたり、計算に用いることができる。 ・自分の考えを言葉、数、式、図、表、グラフ等に表したり、相手に伝えたりすることができる。	・学習内容について根拠をもって理解し、計算などに用いることができる。 ・見通しをもって、問題解決に取り組み、言葉、数、式、図、表、グラフ等で表現し、筋道立てて伝えることができる。 ・自他の考え方を比べて、共通点、相違点を見いだすことができる。	・既習の内容を活用し、問題解決に取り組み、自分の考えについて数理的根拠や処理をもとに、言葉、数、式、図、表、グラフ等を使って適切に表現し、わかりやすく伝えることができる。 ・自他の考え方を比べて、共通点、相違点を見いだし、より良い解き方について考察することができる。
特別支援学級		
・生活に結びつく数や量的な表現を用い、操作や計算をすることで相手に考えを伝えることができる。		

研究仮説

仮説1　既習の知識や技能を活用し、根拠と結びつけた解決ができるよう指導法を工夫すれば、児童は主体的に表現していくことができるだろう。

仮説2　相互に考えを表現する場において、根拠を伴った思考、視点をもった考察ができるよう指導と評価を工夫すれば、自分の考えを深めていくことができるだろう。

授業研究部
授業プロセスの研究
学習評価における指針

学習環境整備部
各学年ブロック共通理解に基づく学習環境の整備

調査研究部
学習の定着率、学習意識などにおける実態把握

低学年ブロック　**中学年ブロック**　**高学年ブロック**　**特別支援学級ブロック**
●具体的な研究実践　●実態調査の考察と対策　●実態に応じた学習環境の整備